

# 令和3年度 第1回 言語聴覚療法学科 教育課程編成委員会 報告書

日時：令和3年10月14日（木）10:00～11:00

場所：zoom 形式

出席者氏名

委員 市川 勝 （北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科言語聴覚療法専攻）  
委員 畠田 将 （一般社団法人巨樹の会 江東リハビリテーション病院）  
教員 浜田 智哉 （日本福祉教育専門学校 言語聴覚療法学科長）  
職員 板野 弘明 （日本福祉教育専門学校 教務課）  
職員 丸山 航也 （日本福祉教育専門学校 教務課） 記録

## 【議事】

### 1. 教育課程編成委員会の進め方について

言語聴覚療法学科長である浜田委員より、今年度の教育課程編成委員会は、第1回委員会で、本学科の運営報告とともに学科で考える改善テーマを提示、第2回委員会では、各委員の先生方それぞれの見地からこのテーマに関するご意見を発表して頂いた上で、次年度に向けた改善に関する協議を行う方針が説明された。

### 2. 2021年度 言語聴覚療法学科における取り組みについて

2020年度の教育課程編成委員会のテーマである「新型コロナ」禍における言語聴覚療法学科の取り組みについて、浜田委員より報告を行った。

（報告項目）

- (1) 言語聴覚療法学科の教育について
- (2) Web、クラウドを用いた学科運営について
- (3) 新型コロナ感染時の対策フローについて
- (4) 臨床実習について
- (5) ことばの相談室について
- (6) 国家試験対策について

### 3. 意見交換

#### (1) 実習におけるコロナ対策について

- ・ 勤務校でもコロナによる実習キャンセルには悩まされている。貴校が対応フローを元に行政からの要請以上の厳格な対応を行っているのは良い姿勢である。そのことが実習先に対する安心感にも繋がっているのではないか。（市川委員）
- ・ コロナ対策のフローチャートは学生に平等に学習の機会が得られるように工夫されている。学生が安心して学習できる環境を整えているとの認識である。（畠田委員）
- ・ 外部からの指示待ちではなく、積極的に対策を取ることがよい結果に繋がった。学科主導で早めの

対応を取ることを心掛けた。(浜田委員)

## (2) インターン実習について

- ・ 所属法人が、今年度このインターン実習に先駆的に関わらせていただいた立場として、今年度の実績を踏まえ、病院と学生とのより質の高い関わり方を模索したい。(畠田委員)
- ・ 巨樹の会様には今年度、パイロットケースとしてインターン実習に関わっていただいた。今後はこの形態をスタンダードとするため、インターン実習のあり方や方法について更に煮詰めていく。(浜田委員)

## (3) 今年度のコロナ対策に対する質疑・応答

- ・ 日本福祉ではフローチャートを学科独自で用意するなど、必要な感染予防策は取られていたのではないか。(市川委員)
- ・ 実習生のワクチン接種について、学校は具体的にどのような対応を行っていたか。(畠田委員)
- ・ 学生に対し、接種の強制は難しい。しかし、学校として出来る限り学生がワクチンを打ちやすい環境作りを心がけた。(浜田委員)
- ・ ワクチン接種はあくまでも学生個人の任意ではあるが、実習生の受け入れ側として接種回数を受入れの判断基準としたいとする意見がある事も事実。学校としてワクチン接種率をどのように上げるかは、引き続き次年度以降も取り組むべき課題である。(畠田委員)

## 4. 今年度の教育課程編成委員会のテーマ

浜田委員より、例年の学生状況を踏まえ、「メンタルヘルスの問題を抱える学生への対応」をテーマにしたいとの提議があり、それに対し両委員から下記の意見を頂いた。

- ・ 近々予定されている、言語聴覚士養成の指定規則変更への対応も、テーマとしては考えられる。(市川委員)
- ・ メンタルヘルスの問題については、病院の側としても考えてみたいテーマである。就職直後の新入職者への職場対応を考える上でも重要であろう。(畠田委員)
- ・ まず、「メンタルヘルス」という大きめのテーマで取り組んで議論し、そこから個別のテーマに絞り込んでいく形で進めてはどうか。(市川委員)

以上の意見交換を踏まえ、今年度の本委員会のテーマは「メンタルヘルス」とすることに決定した。また、第2回の委員会は、各委員がそれぞれ、テーマに対する観点からプレゼンテーションを行い、それをもとに改善策を議論する形とすることも併せて決定した。

## 5. 次回の日程について

第2回の委員会については、令和4年2月もしくは3月に実施することを確認。

以上